

Series 26
オーディオ
つれづれの記

私のオーディオ遍歴

～高校時代にはまり、第二期スタート～

秦 則明 (しん のりあき)
2023年6月入会

ご縁があって入会させていただき、3か月以上が経過致しました。例会、分科会、そして会員の方のご自宅に複数お伺いさせていただくなど勉強させていただき、心優しい会員各位のお陰様を持ちまして、充実した日々を過ごさせていただいております。この場をお借りして、御礼を申し上げますとともに、あらためて自己紹介がてら、自らを振り返ることで、「つれづれの記」とさせていただければと思います。昔話で、しかも、面白い話がある訳でもないですが、最後までお付き合いいただけたら幸いです。

1. 簡単な自己紹介；

未年生まれの、みずがめ座。とりあえず数年後に控えた60歳定年が早く来ないかと心待ちにしています。昨年、松戸市から我孫子市に引っ越してきました。

高校生の頃(1981～84年)、福岡県北九州市の実家でオーディオにどっぷりはまっていたのですが、その後、概ね狭いアパート暮らしだったため、音楽を聴くのは、もっぱらラジカセ、ミニコンポ、携帯プレーヤー程度でした。



4月あけぼの山農業公園



自宅のオーディオ部屋正面

2011年頃から、家が狭くても問題ないヘッドホン・イヤホンにはまっていたのですが、昨年、我孫子市内の中古一軒家へ引っ越し後は、オーディオ熱が再発。とり急ぎ比較的安価な品や中古品で最低限のコンポを揃えました。しかし、当然のことながら、全然思い通りに鳴らず、悩んでいた時、AAFCに出会いました。(妻が、市の広報でコンサートの案内を見つけました。)

以下、オーディオ・音楽に関する自分史です。

2. 小学生まで(～1978年)：「意外に身近にあった音楽、オーディオ装置」

- ・自宅には、ピアノと、ステレオ装置、絵本付きのクラシック全集がなぜかあった
- ・「はげ山の一夜」の絵本を見つつ、朝を告げる鐘の音が印象的だったことを唯一覚えている。
- ・初めてのレコード購入は、1974年レコード大賞を受賞した森進一「襟裳岬」だった。77年の沢田研二「勝手にしやがれ」も買った。ただの流行の後追いだった。
- ・4年生から3年間、鼓笛隊でトランペットを吹いた。初めての演奏曲は「おお牧場はみどり」と、ピンクレディーの「S.O.S.」だった。

- ・親がタダ券をもらえたらしく (?)、ピアノリサイタル、合唱やオーケストラコンサートに年に数回連れて行かれた記憶があるが、基本的に演奏中は寝ていた。
- ・地元 RKB ラジオで日曜午後、ベスト歌謡 50 という、トップ 50 曲を 4 時間にわたり放送する番組があり、モノラルのラジカセでエアチェックしながら欠かさず聞いた。おかげで当時は、イントロクイズ番組の「超ウルトラ・ドン」もだいたい分かった。

3. 中学生時代 (1978 年～1981 年) : 「音楽は聴くものではなく、弾くもの」

- ・誰でもギターを弾く時代 (?) だったので、ある程度のコードしか押さえられず、アルペジオとスリーフィンガーのパターンしか弾けない低レベルではあったが、ギターでの弾き語りを楽しんだ。兄が楽譜を持っていた井上陽水やさだまさし等フォークが多かった。家にあったピアノはギターの音合わせと、「猫ふんじゃった」を弾くためにあった。
- ・1 年生までは小学校の引き続きで、何となく吹奏楽部でトランペットを吹いていた。しかし、おとなしめの部活がつまらなくなり、卓球部に移った。(でもサッカーが好き。)
- ・初めて買った LP レコードは、アニメ映画「さらば宇宙戦艦ヤマト」のサントラ盤だった。家にあった P 社のステレオ装置でよく聴いた。宮川泰作曲で、場面を表現した親しみやすいメロディーが好きだった。一方、当時はいわゆる「ニューミュージック」という言葉が生まれた時代で、地元ラジオ局の CM で美しいコーラスが使われていたオフコースの LP を買い揃えるようになった。楽譜も買って独り弾き語った。



4. 高校時代 (1981 年～1985 年) : 「オーディオとの出会い。蛍光灯 ! のおかげ」

- ・きっかけは、「蛍光灯 (正確にはグロースタートのグロー球)」だった。実家にあったステレオ装置は、外見は立派だったが、実際の中身は、スピーカーを除き機器がラックに直接ビルトインされた、前面パネルだけが金属のハリボテだった。(いわゆるセパレートステレオ) そのせいか、レコードをカセットテープに録音している時に、家のどこかで蛍光灯を点灯すると、バチっというノイズが録音されてしまった。レコードの録音は、ただでさえノイズが気になるのに、蛍光灯のノイズはガマンがならず、対策を色々調べ始めた。その結果、奥深いオーディオの世界にはまり込んだ。
- ・原因の狙いを定め、最初にアンプを変えたら、ノイズを拾わなくなった。もちろん、スピーカーから出る音も変わった。その音の変化は新しい体験だった。
- ・時代が背中を押していた。1979 年に S 社がウォークマンを発売して大ヒットし、81 年時点ではウォークマンもカセットテープ大に極小化、各社が追随し音楽再生機は活況を呈していた。1 か月分のお小遣いに匹敵する LP レコードは頻繁には買えず、友人同士で音楽をカセットテープに録音して交換し合ったり、エアチェックしたりすることで好きな音楽 (主に流行歌) を楽しんだ。
- ・ニューミュージックと、アイドル全盛の時代だが、意外と多様な音楽があった。最初の

10本入りカセットケースの中身は、オフコースのアルバム5本と松田聖子4本とクラシック（とはいえないが Hooked On Classic）1本だった。高校生活も後半になると、男はみんな浜田省吾と佐野元春を聞き、洋楽を含む様々な音楽の入ったカセットテープがやたらと増えた。1982年のマイケル=ジャクソン「Thriller」でプロモーションビデオの質が急激に高くなった。TOTOとかE&Fとか洋楽のアルバムもいくつか買った。



〔松田聖子 ユートピア〕



〔TOTO IV ~聖なる剣〕



〔佐野元春 No Damage〕

- ・この頃ちょうど、オーディオ（そしてビジュアル）の世界は大きな転換点だったと思う。それがオーディオの未来（今は過去）への興味を刺激し続けた。
- ・この時代、自分の中では次の2つが大事件であった。
 - 1982年10月 CDプレーヤー発売
高嶺の花だったが、「ノイズ」のない世界が実現することに心躍った。
LPと散髪代が2800円の時代、CD3500～3700円は高くて買えなかった。
 - 1983年4月 HiFiビデオ発売
欠点はあったがビデオ音質が飛躍的に上昇。（現在も季刊で残る雑誌HiViは同年12月発刊。）自分の中で、オーディオ（A）とビジュアル（V）は切り離せないという意識が植え付けられた気がする。
- ・その他の技術トレンドも動いていた。レコードプレーヤーは、ベルトドライブからダイレクトドライブへ（今は逆？）、針はMM型からMC型へ、磁気テープはオープンリールからカセットテープへ。CDプレーヤーが一気に小型化（SONY D-50 1984年）し、レーザーディスクもコンパクトプレーヤー（CDも再生可）が出たりした。ヘッドホンもウォークマンの影響で、密閉型ではなくオープンエア型が主流になった。カセットデッキでは、ヘッド素材がパーマロイとかアモルファスとかいう言葉が躍り、オートリバースやダブルデッキが出て爛熟期を迎えていた。ついでに、当時ドルビーといえばNR（ノイズリダクション）だったことは言うまでもない。サラウンドといえば、マトリックス配線（アンプのLRの両プラスをスピーカーに繋ぐ何だか危ないやつ）のスピーカーを後ろに置いて、疑似サラウンド体験を喜んでいたくらいだった。（去年、自宅でやってみたが、意外に楽しかった。）
- ・オーディオ機器といえば、当時は日本企業の独壇場で、世界を席巻していたが、スピーカーだけは海外メーカー（JBL、TANNOY等）に一日の長があった。実際、小型スピーカーは日本製とは出来が違う、当時JBL最安値の小型スピーカーJ216(29,800円)をオーディオ専門店で高級セパレートアンプとCDプレーヤーにより、ウーハーユニットが動くのがよくわかるくらいの大音量で鳴らしてもらった時の体験は今でも忘れない。最初、隣にあった4345が鳴っているのかと思った。NS-10M等とは雲泥の差だったが、日本の住宅事情（狭小、木造）では、大音量でないと実力を発揮できないスピーカーは、マ

ニアはともかく、一般家庭にはそれほど受け入れられなかったと思う。

- ・オーディオを深めるには、やはり語り合える仲間が必要だ。中学時代からの同級生と一緒にオーディオにのめりこんだ。FM レコパル（隔週発行）は友人が購入し、サウンドレコパル（月刊誌）は自分が購入して交換して読んだ。「やっぱ、カセットデッキはクローズドループダブルキャプスタンに限るね」とか、やたらカタカナ語を覚えた。
- ・別の友人の誕生日に、小さくて薄い高級チョコレートの空き箱の中に、T社のMA-R（アルミダイキャストフレームの高級メタルテープ）をテープで張り付けて贈ったことがある。その後1か月、冷凍室に保管（！）されていたようで、一応注意喚起したら、友人にムツとされた。実に心外だった。

5. 大学時代（1986～1990年）：「一応機器は揃ったが、逆に薄れゆくオーディオ熱」

- ・高校時代に、（親と交渉を続け）徐々に実家に買い揃えたオーディオコンポに、（一浪したのに）入学祝的な追加品も加えて下宿に出た。（浪人中は暇なので、自宅ベランダに位相差給電型のFMアンテナを設置したりした。）当時は次のような感じだった。

プリメインアンプ : SANSUI AU-D607G EXTRA (1983年発売 力強い低音魅力)
レコードプレーヤー : DENON DP-35F (1983年発売 無論ダイレクトドライブ)
カセットデッキ : AIWA AD-FF60 (1982年発売 ドルビー-HX PRO 搭載)
同上 : AIWA AD-R50 (1983年発売 0.2秒クイックリバース機)
FM/AMチューナー : KENWOOD KT-1010F (1985年発売 旧トリオ)
CDプレーヤー : SONY CDP-55 (1986年発売 曲順のプログラムが簡単)
スピーカー : YAMAHA NS-30X (1986年発売 3WAY 最安 29800円/本)

後に、兄とアパートで同居することになり、あまり大きな音で楽しめないまま、何となくオーディオから遠ざかり、隆盛しつつあったファミコンゲームで盛り上がっていた。

- ・入学後の半年ほどは、懲りずにまたトランペットでも吹きたいなあとあって大学の交響楽団に顔を出したら、チェロが足りないということで、練習させられた。新鮮だったのでしばらく励んでいたが、自主コンサートのチケット販売のノルマに嫌気がさし、半年くらいで辞めてしまった。（その時のコンサート曲目ブラームス交響曲第1番と、モーツァルトの41番「ジュピター」は、当然生でたくさん聞いた。）今考えると、楽団の運営は大変だったはずだが、当時の世間知らずには覚悟がなく、全然わかっていなかった。
- ・その後は、サッカー好きだが、まじめに練習したくない者の集まりである「サッカー愛好会」に入った。基本的に忠実で地味に強いサッカーをする「部」よりも、華麗でトリッキーな足技やパスを無駄に乱発し、その挙句にボールを取られ言い訳ばかりする「愛好会」の方が好きだった。当然、サッカー部と試合をすると、最初は互角以上に渡り合えるが、時間の経過とともに走り負けた。
- ・学生生活の後半は、実家で一眼レフカメラを購入したことを契機にカメラを知り、写真を撮るのが楽しくなって、K社 SAMURAIを購入して撮影してまわった。世の中はバブルだったらしいが、ディスコにも行かず、実に健全だった。

6. 会社員生活前半（1990年～2010年）：「オーディオの『失われた20年』」

- ・文系ではあるがモノや技術が好きでメーカーに就職した。転勤が少なくなく、住まいは

神奈川県を皮切りに、千葉県（柏市）、山口県、東京都、茨城県、千葉県（松戸市）と転居した。寮生活や狭いアパート暮らしが多く、オーディオコンポとカセットテープ 45 本入りケース 3 つは実家に置きっぱなしになり、やむなく順次処分した。はじけたバブルのなごりが残る中、音楽とはせいぜいカラオケで歌うことだった。

- ・音響機器はデジタル化とともに小型化（携帯デジタルプレーヤー等）の一途を辿った。
- ・この間、パソコンやデジタルカメラが普及し、オーディオの代わりに結構夢中になったが、話がとても長くなる。今でも旅行に行くと、デジカメで、たくさん写真を撮る。
- ・パソコンで CD のリッピングができる時代になると、保有していた CD は売却し、大半を MP3 の 128kbps にして HDD に入れた。当時は HDD が高価で容量も少なく、音質へのこだわりも薄かったため MP3 だったが、その後、必要な曲は、CD レンタル店で借りたり中古で再購入したりして WAV ないし FLAC でリッピングし直すことになってしまったので、後から考えると大変もったいなかった。

7. 会社生活後半（2011 年～2021 年）：『ヘッドホン・イヤホンと PC オーディオの隆盛』

- ・東日本大震災の直後、3 度目の東京勤務になって、秋葉原に行きやすくなった。秋葉原は、部品街・電気街からパソコンパーツの街になったあと、アニメ・フィギュアと「ご主人様」の街に変貌していたが、この頃、新宿区の中野とともに、突然ヘッドホン・イヤホンの流行の震源地になった。
- ・電器店でたまたま試聴したヘッドホン（その後オーテクの ATH-ESW9 と判明）の音と姿の良さに感銘を受けたことから、自宅にスペースを要しないヘッドホン・イヤホンの魅力に取りつかれた。耳に直接音が届き没頭できるので、ストレスがたまると、睡眠導入剤的に夜中まで聴き入って、そのまま椅子で寝てしまうことも多かった。
- ・最初に購入したヘッドホンは、Shure SRH840 だった（ご存じレコード針の有名メーカーでもある）。解像度の高さと、低音が塊で鼓膜にあたってくるような感覚に驚いた。その後、次々と結構な数のヘッドホン・イヤホンを買っては聴いて処分を繰り返した。
- ・2017 年頃から家の引っ越しを考え始めたこともあて節約意識が高まり、2020 年頃、ヘッドホン・イヤホンのマイブームは強制終了させた。

8. 最近（2022 年～AAFC 入会前）

- ・コロナ禍さめやらぬ 2022 年に我孫子の一軒家（築 30 年）に引っ越しをして、ついに自宅に念願のオーディオ装置の置ける部屋を確保した。
- ・中古や低価格品がほとんどだが、ひととおり必要なオーディオ装置を揃え、バラ色のオーディオライフをスタートさせた、つもりだったが、なかなか思うようには鳴ってくれていない。わかってはいたが、オーディオの道は長く遠い。
- ・部屋は洋室で、家具が何も無い時はかなりライブだった。手をたたくとビヨヨ〜と響き、耳障りな音が多かった。そこで、床に厚めのカーペットを敷き、部屋の前方両角には三つ折りマットを設置して吸音した。袋小路になっている入口ドア付近には壁一面にピラミッド型ウレタンスポンジを張り、床にはマットを敷いた。収納の扉に無理やりカーテンを設置するなど、できる限り部屋をデッドに誘導した。しかし、今になって、デッドにしすぎたのではないかと反省している。道に迷ってばかりだ。



9. 現在、音楽・オーディオに関して：「J-POPS 多いが、特にポリシーなく何でも聞く。」
- ・オールジャンルで幅広く聴くことを自認している。いかんせんミーハーなので J-Pop が多いが、Jazz、クラシック、海外 Pops、歌謡曲、映画音楽、イージーリスニング、アニメ等々なんでも聞く。演歌、オールディーズ、シャンソン、タンゴ、ガムラン、読経（音楽？）等も少しずつある。
 - ・したがって、オーディオへの欲求は、何を鳴らしてもそれなりに聞ける音であって欲しい、という贅沢なことになるが、もちろん実現することはないだろう。
 - ・貧乏性で、高級品はなかなか購入できない。（もちろん、お小遣いの範囲内）どうしようか迷ったら安い方を購入する癖がある。
 - ・たくさんのヘッドホン・イヤホンを中古で売り買いした結果、いつしか中古品でも音がしっかり鳴れば、キズ等があってもあまり気にしなくなった。
 - ・いつか手を出してみたい気はしていたが、過去は「レコード、自作、真空管」の3つからは縁遠かった。その分、興味は常にあった。
 - ・真空管については、高校時代に発売された ALPINE/LUXMAN のハイブリッドプリメインアンプの真空管の印象が強く、とてもオシャレに見えた。あのボヤっとしたヒーターのオレンジ色はかなり好き。
 - ・自作については、高校時代に贈答品のウニの木箱と、捨ててあったテレコのスピーカーで密閉型とし（中には雑巾を突っ込んだ）、ウォークマンのヘッドホン端子の出力（当然ここが無理）で鳴らしてみたが、箱は鳴り、音は歪んで聞くに堪えなかったので、その後、自作は少々トラウマになった。唯一、ヘッドホン・イヤホン流行初期の USB-DAC 付きヘッドホンアンプは、オペアンプが交換可能な製品が多かったので、色々交換して試した。簡単で、しかもケースを開けて回路を見たりするので、結構楽しかった。
 - ・コンサートには時々行く。流山ジャズフェスティバルでは生ける伝説、猪俣猛さんを拝見した。ご高齢だったが、ドラムソロは心配になるくらい熱く打っておられた。また、コンサートで「炎のマエストロ」小林研一郎さんの指揮を拝見したことがあるが、背筋が伸びて動きが大きく、とてもお元気だった。ブルーノート東京に行ったり、渋谷の名曲喫茶ライオンに行ったりして、自分の中に音の体験を増やすことを少し心掛けている。
 - ・AAFC への入会后、まだまだ一部ではありますが、会員の方々と言葉を交わす機会をいただき、お宅を訪問したり、逆に拙宅に来ていただいてご指導いただく機会を得るなど、既に変にお世話になっています。



5月 天栄村プリティッシュヒルズにて

・先輩会員の方にご指導いただいた結果、入会から数か月で、初歩的だがスピーカーの測定ができるようになった(右図参照)。安価だが測定用のマイク等を購入し、フリーソフトで解析できるようになり、自分としては歴史的ステップアップだ。(もう感謝しかない！)

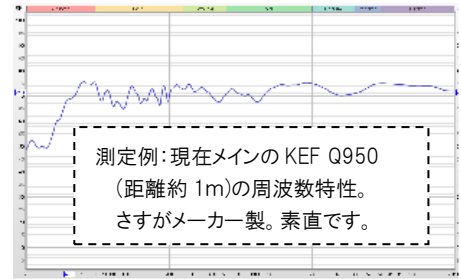
・その結果、素人同然だが、7月後半くらいからスピーカーの自作を始めた。ご助言もいただきながら、高校時代のトラウマの克服(?)に向けて努力中。

・具体的には、箱の汎用キット(小さいもの)や色々なユニットを入手して、とりあえず組み立てて鳴らしてみたり、



100円ショップのMDF板を組み合わせて箱を作ってみたりしている。まずは、チャンネルディバイダとマルチアンプによる2WAYとサブウーハー(SW)で、気軽に楽しめるスピーカーを完成させたい。自作スピーカーの製作は、実際に自分で試してみることで、その構造と技術を知ることができ、その

特性と実際聴いた音を考え合わせることで、今後の機器の選定やセッティングの改善等にも役立つのではないかと考えている。もちろん、なかなかうまくはいかないが、自分の座右の銘は「道に迷えば、道を覚える」だ。



以上です。

一人で悶々としているのではなく、会員の方々を通して幅広い知識が得られ、色々な相談ができ、一緒に楽しめるというのが、AAFCの魅力だと思います。本当に入会してよかったです。先輩会員の方々には本当に感謝!感謝!の日々となっています。

本稿を書いている、過去の反省点も含め色々な気付きがあり、あまり自分の過去なんて振り返ったこともないので、不思議と楽しかったです。つい、長文になってしまいましたが、お付き合いいただき、ありがとうございました。

これに懲りず皆様、今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

<付録> 現在、メインのオーディオ機器は以下の通り。

- ・HDD プレーヤー: SONY HAP-Z1ES (メインの再生機。PC+DAC はサブ)
 - ・USB-DAC (付きヘッドフォンアンプ): marantz HD-DAC1
 - ・データ管理/プレーヤー: Macbook Pro 2012 を Windows10 で稼働/foober2000
 - ・プリメインアンプ: Luxman L-505uX II
 - ・スピーカー: KEF Q950
- (他に、AV システムはありますが、レコードプレーヤーはありません。)